① 毎月25日発行

山と博物館

第49巻　第6号　2004年6月25日　　市立大町山岳博物館

全国雪形フェスティバル（写真は全国雪形シンポジウムの様子）

文・写真　大町山岳博物館

今年度（平成十六年度）は大町市制施行五〇周年の節目の年にあたります。大町市では年間を通してさまざまな記念事業を企画・実施していますが、そのひとつとして、一昨年から毎年行なわれてきた「北アルプス雪形まつり」の内容を充実させて、「全国雪形フェスティバル」（主催：大町市・北アルプス雪形まつり実行委員会）を五月二十二・二十三日の二日間にわたり開催しました。

一日目は「全国雪形シンポジウム」を開催。「雪形を生かした地域づくり」と題して、国際雪形研究会の納口恭明氏による基調講演が行なわれました。その後、「雪形とこれからの地域づくり」をテーマにパネルディスカッションが行なわれました。ここでは全国の雪形にゆかりのある一〇市町村（岩手県西根町・福島県福島市・福島県猪苗代町・新潟県新井市・新潟県湯之谷村・新潟県関川村・富山県宇奈月町・福井県勝山市・長野県駒ヶ根市・長野県大町市）の首長などがパネラーとして参加し、各地域に残された伝統的な雪形を紹介したり、雪や山を生かした地域づくりについて意見交換を行なったりしました。

また、この日の午前中には「北アルプス雪形ウォッチング」が行なわれ、参加者は安曇野周辺の雪形を探訪して回りました。このほかにもシンポジウム参加の市町村をはじめとする全国各地の雪形の写真を展示した「全国雪形写真展」や、雪形にゆかりのある各地域の物産を販売する「全国雪形マーケット」も開かれました。

二日目には「第3回北アルプス雪形まつり」を開催。市民による各種芸術・文化のステージ発表などが行なわれ、両日とも会場周辺は賑わいを見せました。

山岳文化都市宣言記念事業in大町
第2回北アルプス雪形まつり
北アルプス雪形フォーラム

期日　平成十五年五月十七日
会場　大町山岳博物館講堂
主催　第2回北アルプス雪形まつり実行委員会
共催　大町市　大町市教育委員会　大町市観光協会
　　大町市商工会議所　大町市芸術文化協会

大町山岳博物館編

昨年、大町市において「雪形」の持つ魅力と新たなる可能性について語り合う「北アルプス雪形フォーラム」が開催されました。ここでは、自然の贈りものである「雪形」を通じて地域や全国の雪形愛好家・研究者の方々が交流し、雪形が伝わる全国のふるさとをつなぐきっかけとすることを目指し、雪形に精通した先生方を招いて講演と懇談会を行ないました。
本誌では当日行なわれた納口恭明先生による基調講演の内容を全二回にわたって紹介します。

雪形の魅力と可能性(後)

納口恭明

雪の分布が分かる

もうひとつ例を挙げます。写真⑧は新潟県の八海山に出る「豆まき入道」という雪形です。この雪形が出る時期の前後、一週間に一度位の間隔で写真を撮るかスケッチをしてみます。するといつまでも白く残る所が多い場所には雪がたくさんあり、早く黒くなった所には雪はあまりありません。

ある場所での気温が分かると、その気温をもとにそれぞれの高度での気温に変換する方法があるので、何℃になったら何cm雪が融けるかを考慮して計算します。これによって雪形が一週間でどれだけ消えたかという情報が分かり、これさえあればその山に雪が一番積もっていたときに雪がどんな分布であったのかが明らかになります。こうしたことが写真やスケッチだけで分かるわけです。

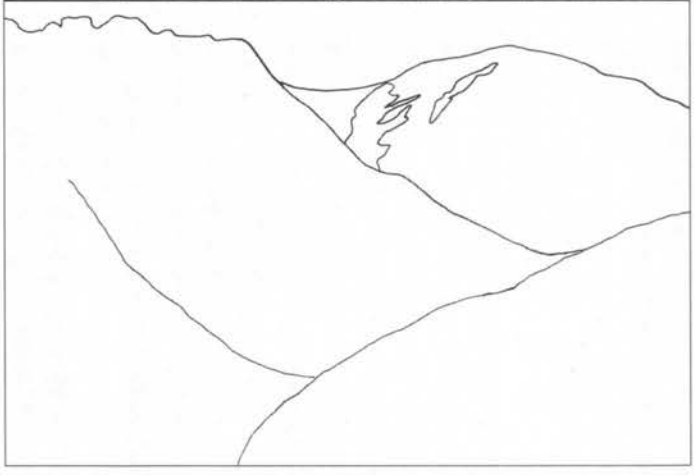
宇宙に飛ばした衛星からの衛星写真や様々なデータを分析することで、地球上の雪の分布など科学的な情報が分かるというのですが、実はそこでとらえる精度よりも自宅の庭から雪形の写真を一週間に一度位撮っている方がはるかに高い精度で雪の分布をとらえることができるのです。

地滑り地形を教えてくれる

雪形となる残雪の形は山の斜面の地形ですべて決まるという話をしましたが、その例を紹介します。

写真⑨には円環状の形をした残雪があります。これは「日輪」と呼ばれる雪形で、ここの地形を解析するとかつて地滑りがあったことが分かります。円形状に地面が滑り、急激な段差が生まれて雪が溜まりやすくなったのです。こうした地滑り地形が融雪期に円環状の雪形を出現させるのです。

このように雪形として名前が付けられていなくても、同じような輪の形をした残雪が素人目にもすぐ分かる場所がほかにもあります。こうした地滑り地形がある場所を、その地形上を覆う雪形が教えてくれるのです。



写真⑧　豆まき入道(八海山)　新潟県六日町にて　遠藤八十一氏撮影

写真⑨　日輪(米子頭山)　新潟県塩沢町にて　遠藤八十一氏撮影

雪形と心理学

雪形の自然科学的な部分にふれてきましたが、今度は少し違った科学的な部分について話します。

図②　「粟蒔き婆さん」
酒井英次氏作画

写真⑩　粟まき婆さん（粟ヶ岳）　新潟県加茂市にて　和泉薫氏撮影

写真⑩は粟をまいているお婆さんの姿に見えることから「粟まき婆さん」と呼ばれる雪形です。この絵（図②）を見てください。腰をかがめたようなお婆さんのような姿が見えます。絵を見てから写真に戻るとお婆さんの姿が良く分かると思いますが、お婆さんの前に粟がポンポンポンと出ています。

心理学でよく使うこうした変わった絵（図③）があります。黒い方と白い方でふたつの絵が見えると思います。黒い部分は何かワイングラスのような感じです。白い部分を見ると人の顔が向かい合っているように見えて、このとき黒い部分は形として認識していません。

同様にして普通の雪形は黒い部分か白い部分かのどちらかに分かれますが、「粟まき婆さん」の雪形は特殊な例でお婆さんの頭にある白い部分が「豆まき鳥」、お婆さんの前にある黒い部分を「かご形」、その下にある部分が「牛形」、お婆さんの後ろにある白い部分には「のて藁」という藁を束ねたものに対するローカルな呼び名が付いています。つまり隣り合った雪形に全て名前が付いているという変わった雪形です。心理学的な意味合いでこうした雪形を分析すれば、様々な効果があるのではないかと思います。

図③　「ルビンのつぼ」

またこの絵は人の横顔にも見えて不気味な心霊写真にも見えたりします。そういう方に目がいったら、もうそれしか見えません。言い忘れていましたが、強い印象をひとつ受けると心理学的効果でそのようにしか見えなかったり、あるいは口で言ってしまうと頭の中で認知されてそれ以外のものに見ようとしてもなかなか見えにくくなってしまったりします。こうした意味ではマインドコントロールのような効果がありますので、私が言ったことをそのまま鵜呑みにしてしまわないように気を付けてください。

3. 雪形の「国際性」

「YUKIGATA」は国際用語

日本には雪形がたくさんありますが、海外ではどうでしょう。

私は雪関係の国際学会に参加するために海外へ出掛ける機会があります。私が雪形を調べ出してから、海外での事情を知るために国際学会で通常の発表以外にも雪形の発表を必ずします。これはポスター発表といって掲示板のような所に写真を貼ったりして説明します。一九九六年に初めてロシアとドイツやカナダなど何箇所か同時に雪形の発表をしました。もちろん海外の方々は「雪形」という言葉さえ知らないはずなのに大勢集まってきました。オーストリアのインスブルックで二〇〇〇年に開催された学会でも同様に雪形の発表をした際、海外の方々が大勢集まってきて「そういうものはうちの国にもあるぞ」という話が出てきました。そういう話を次々と集めて調べていったのです。

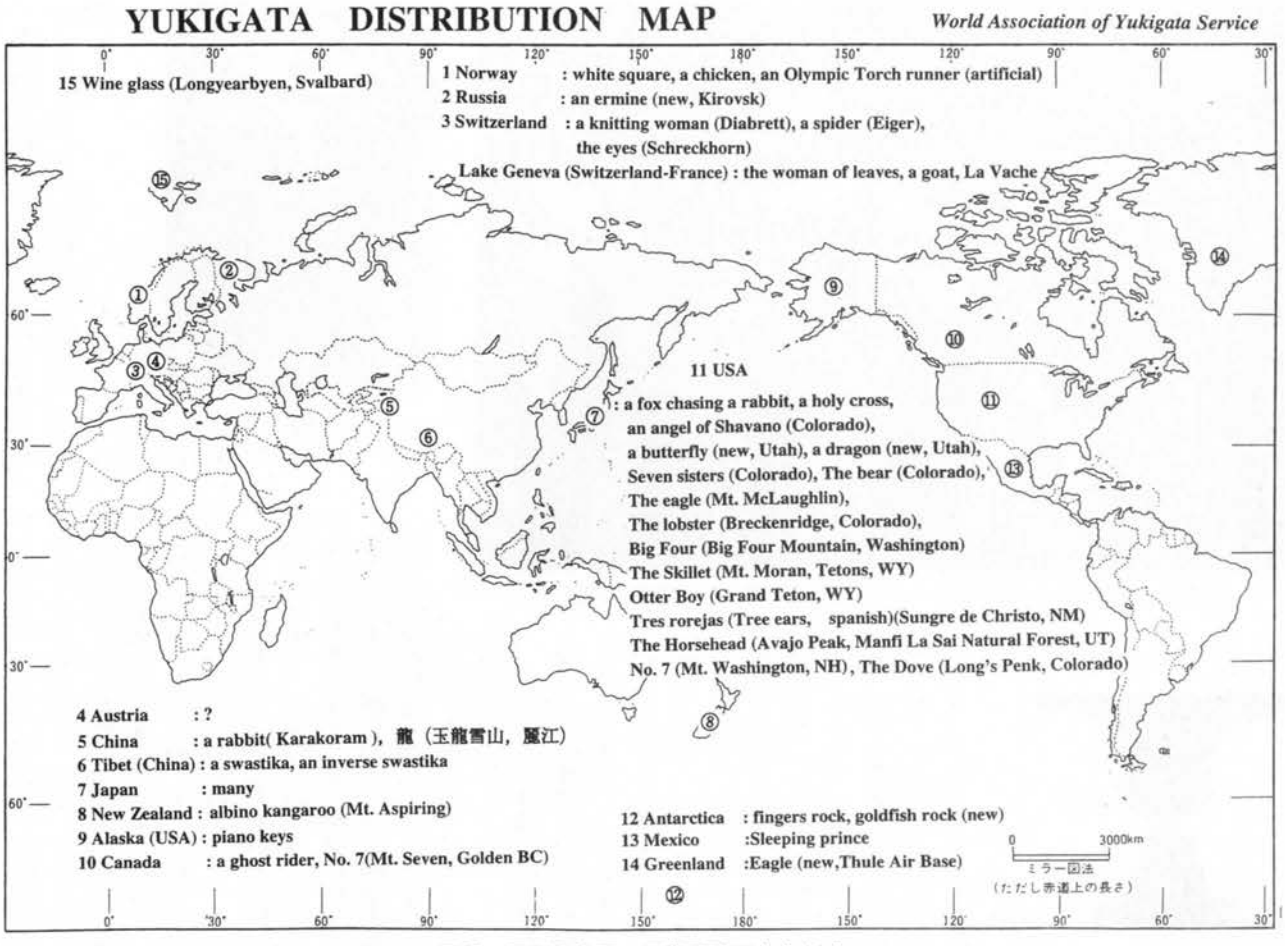
図④は世界各国の雪形分布を示したものです。しかし海外の雪形には日本で言う雪形ほど厳密な意味はありません。つまりちょっとした残雪のような所に名前が付けられたり、氷河まではいきませんが日本で言ういわゆる万年雪のような雪渓に名前を付けたりしたものがほとんどです。そういう意味では拡大解釈した雪形となりますが、海外にも雪形があることが分かりました。

図に「YUKIGATA DISTRIBUTION MAP（雪形分布図）」とありますが、日本語の「雪形」に相当する言葉は海外にはありません。「馬」「猫」「犬」「爺さん」「婆さん」というように個々の残雪には名前が付いていますが、これらをまとめて言い表す言葉は外国にはないのです。この点において日本は雪形という文化に関して先進国で、雪形というコンセプトは「我が国にしかない」ということになります。つまり雪形という言葉は国際用語になり得るということなのです。もし皆さんが海外の方に「雪形って英語で何て言うのですか」と質問されたときに、無理をして「〝雪〟は〝Snow〟でしょ、あとは〝形〟だから〝Shape〟かな〝Form〟かなぁ…」などと悩まなくても良いのです。ずばり「YUKIGATA」と言えば良いのです。

冬季五輪と雪形の不思議な関係？

ここで海外の雪形について少し例を挙げて話します。

雪形がある海外の国の中で日本に匹敵するほど多くの伝統的な雪形を持つ国はノルウェーです。写真⑪は伝統的な雪形ではなく、ノ



図④　雪形分布図　国際雪形研究会作成

ルウェーで人工的に作られた雪形です。わざと木を伐採して、木の黒い部分と木のない白い部分とで形作った「トーチランナー（聖火ランナー）」という雪形です。これは長野オリンピックの前回にあたるリレハンメル・オリンピックのときに作られました。このほかにもノルウェーには伝承のある雪形も多数あります。

写真12　バタフライ（アメリカ・ソルトレイク）

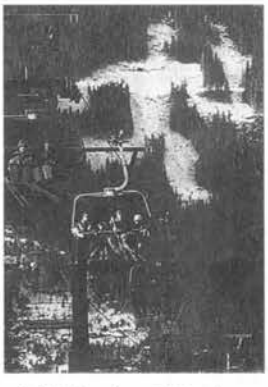


写真11　トーチランナー（ノルウェー・リレハンメル）「朝日新聞」より

長野オリンピックの次にはアメリカでソルトレイク・オリンピックが行なわれました。写真⑫はユタ州ソルトレイクシティの近くに出る「バタフライ（蝶）」という雪形です。それから写真⑬は「ドラゴン（西洋の龍）」という雪形です。

ここで何か気付きませんか。リレハンメル、それから長野、そしてソルトレイク。そうです最近の冬季五輪の開催地には全て雪形があったのです。偶然なのか確かめようと、先ほどの分布図で次回のトリノ・オリンピック開催地のイタリアを見てみました。もしあった

写真13　ドラゴン（アメリカ・ソルトレイク）

ら面白いのですが、今のところイタリアに雪形があるという情報は得られていません。私はイタリアの友人が何人かいるので雪形について聞いてみましたが、「そんなのイタリアにはないよ」とみんな言います。しかし日本人でも十人に一人位しか雪形の存在を知りませんから、イタリアに雪形が本当にないかどうかは分からないです。「ある」という証明は簡単にできますが、「ない」という証明はそう簡単にはできません。

4. 「遊び」としての雪形

新しい雪形

今まで具体的な話が続きましたが、今度は遊びのことについて話したいと思います。

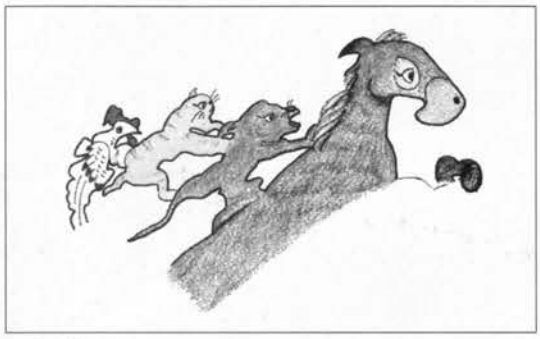
田淵行男さんが自著『山の紋章　雪形』で述べていますが、田淵さんは自分で新しく見つけた雪形に「舞姫」という名前を付けたそうです。実は伝統的な雪形の多くは見ているだけでは楽しめないというのか、なかなか納得してもらえない場合が多いです。ところが伝承はないけれど、面白い雪形を自分で新しく見つけて勝手に名前を付ければさらに面白くなってきます。こうした例をいくつか紹介します。

一週間前に大町市でも「雪形見っけ隊」というイベントを行ったと聞きました。そういうことを私たちも少しやっています。写真⑭は「ブレーメンの音楽隊」という変わった名前が付けられた新しい雪形です。

新しく雪形とみなすにはひとつ条件があります。それは「毎年必ず現れる」ということです。これさえクリアしていればどんな雪形でも良いのです。新しい雪形はネーミングの面白さと、その形が安定していることが大切になります。「ブレーメンの音楽隊」というのは皆さんご存知の通りで、この絵（図⑤）のようにロバと犬と猫と鶏が背中に飛び乗って泥棒を追い返したという場面です。絵がなくて写真だけを見ていると何とも思わないですが、しばらくこの絵を見てから写真の場所へ行くと、もうこれにしか見えなくなってしまいます。この新しい雪形は新幹線で東京方面から新潟へ向かう途中、長岡市を通過する辺りで四月上・中旬ころに見えますので、この時期にそちらへ行くことがあればぜひ見てください。

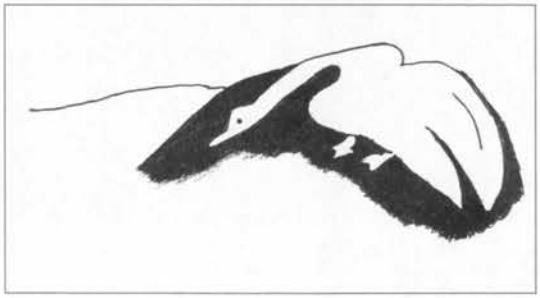
写真⑮は関越自動車道を通る途中に見えますが、谷川岳の「オオハクチョウ」という新しい雪形です。これにもこうした絵（図⑥）をつけると分かりやすくなります。実はこの山には昔からの伝承ある雪形も眠っています。本当はそちらの方が文化遺産としては重要ですが、面白い方を主張しないと誰も見向きもしてくれないのです。本当は黒い部分を「親馬」「子馬」といって、これらが昔からいわれている雪形です。

もうひとつ自信のある新しい雪形を紹介します。写真⑯は日本以外で見つけた雪形で、黒い部分を見てください。後ろ髪、顔、胸、胴体があって、横を向いている少女のような姿の雪形です。これはロシアのカムチャツカ半島で春に二ヶ月ほど調査を行なってきた私の仲間の若者たちが見つけた雪形でした。若い男ふたりが二ヶ月間ずっとあちらで一緒に居ると、ついつい妄想のようにして残雪模様に美しい女性を連想し、蜃気楼のような夢を見ていたのではないかと思います。しかし残念ながら黒いタイプの雪形は時間とともに雪が融け、だんだん太っていきます。ご多分に



図⑤ 「ブレーメンの音楽隊」 竹内由香里氏発見・命名・作画

写真14 ブレーメンの音楽隊（鋸山）
新潟県長岡市にて　小林俊市氏撮影



図⑥ 「オオハクチョウ」 和泉薫氏発見・命名・作画

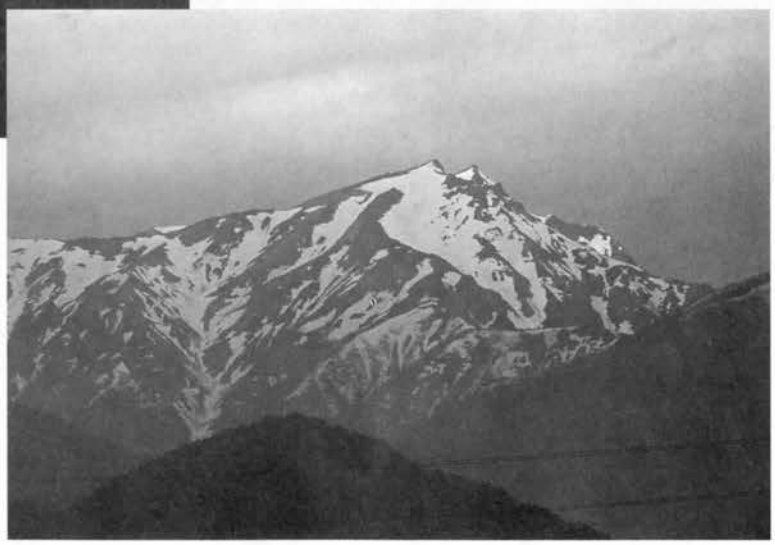


写真15 オオハクチョウ（谷川岳） 関越道下牧パーキングにて　山野井克巳氏撮影

写真16　カムチャツカのロシア娘　松元高峰氏発見・命名・撮影　さて、どこにいるか分かりますか？

もれずこのロシアの少女はやがてロシアに住むおばさんの姿へ変わってしまいます。

おわりに

雪国に住んでいる人以上にそうでない人の方が雪形に対して価値を見出します。そして日本人よりも外国人の方が雪形の説明をしたときに興味を持ちます。

最初にも述べましたが雪形の魅力には四つのポイントがあります。

まずひとつは「文化遺産」としての意味。これは長い歴史を連ねながら現在に残された雪形ということです。この点は、雪形がある海外の国に比べて日本の方が圧倒的に先進国です。このことは大事にしなければならず、忘れ去られようとしている雪形を後世に残していく必要があります。

もうひとつは「科学」との関係。雪形となる残雪部分の地形や気候といった自然科学的な面や、雪形の心理学的な意味合いだとか、考えようによっては様々なことを探れます。こうしたことに対してお金を掛けずに観察できることも重要かつ不可欠な要素です。

そして「国際性」です。これは「YUKIGATA」という言葉が国際用語になっても良いほど、日本における雪形のコンセプトはほかの国よりも圧倒的に先に進んでいると言えます。

以上の三つはどれも重要ですが、私自身が一番重要だと思うのは「楽しさ」です。つまり雪形には「遊び」の要素があるということなのです。これがなければいくら国際性があるとか文化的な遺産であるといっても若い子供たちは見向きもしてくれません。ところがつまらないような残雪でも、形があって面白がらせることができれば子供はちはとても喜んでくれます。かつて雪形の伝承は農作業とともに伝わってきたと言われますが、こうした雪形の伝承を現代に新しく復活させようとするならば、それはこうした楽しみの中で伝承していくことが唯一の方法だと思います。楽しさを抜きにしたら新しい伝承は生まれてきません。

最後に、これまで私たちにとって雪形を見るということは里から山を見てそこに残雪の絵を見付けることでした。その残雪自体の実際の大きさは一〇〇mほどで、それを一〇km前後の距離をおき、視野にして一度ほどの範囲に収まるものを雪形として見てきたわけです。しかしやがて将来、人間が宇宙に行って火星にでも移住したら、そこから地球を眺めてユーラシア大陸の積雪地域がウサギの形になっているのを見つけて、「地球ではそろそろ田植えのシーズンだな」などと言いながら火星に移住した元地球住民が故郷を懐かしむなんてこともあり得るのではないでしょうか

（故沼口敦氏より）。

（おわり）

（のうぐちやすあき／防災科学技術研究所）

山と博物館　第49巻第6号
二〇〇四年六月二十五日発行
発行　〒398-0002 長野県大町市大字大町八〇五六―一
市立大町山岳博物館
TEL　〇二六一―二二―〇二一一
FAX　〇二六一―二二―二二三三
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/
印刷　㈱奥村印刷
定価　年額一、五〇〇円（送料共）（切手不可）
郵便振替口座番号〇〇五四〇―七―一三二九三

R100 PRINTED WITH SOY INK この「山と博物館」は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。